

防災の課題

- ・ 全国で多くの高齢者が被害に遭っている
- ・ 地域全体で命を守ることが重要
- ・ 地域支援者で避難支援ができる体制構築を目指す



既存の取組（住民支え合いマップづくり）

- ・ 地域住民同士が地域課題等について共有
- ・ 顔の見える関係づくりを大切にしている
- ・ 地域のネットワークが構築されている



取組

経緯

- ・ 「住民支え合いマップづくり」を活用して、個別避難計画を作成できないか

テーマ

- ・ 「住民支え合いマップづくりと連動した個別避難計画の作成」

作成

- ・ 優先度が高い避難行動要支援者から個別避難計画を作成

真に避難支援を要する者の個別避難計画の作成

地域支援者が支え合いマップ作成後、避難行動要支援者を要支援者区分シートを基に優先度を4段階（S・A・B・C）に細分化し、優先度の高い避難行動要支援者（S・A）に絞り込み、個別避難計画を各地区ごとに策定。



S：医療・介護の専門的支援が必要な人（A以上）

B：一部介助、車いすなどで移動ができる人

A：寝たきりなどで専門的支援が必要な人

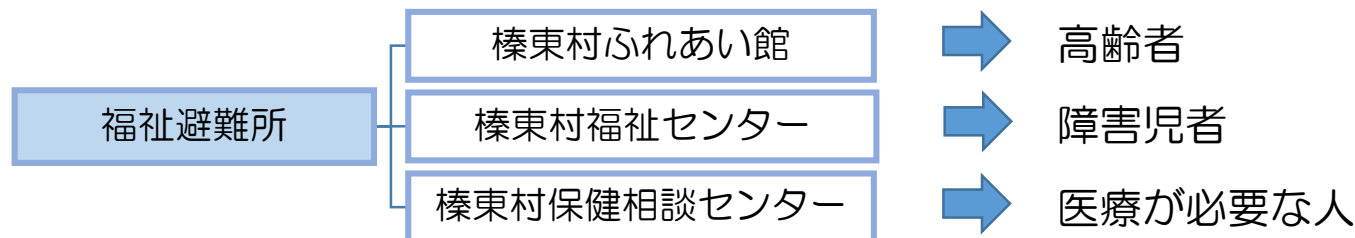
C：一部支援や見守りで生活可能な人

福祉専門職との連携

地域支援者主体で作成している個別避難計画について、地域包括支援センターを通じて福祉専門職と連携することで、専門的視点を取り込み計画を策定するとともに、福祉専門職においてもケアプラン作成時にその情報を反映する

福祉避難所への直接避難の振り分け

個別避難計画に基づき村内に3箇所ある福祉避難所へ直接避難できるよう、福祉避難所の振り分けとそれぞれの避難経路を作成し、地域支援者及び避難行動要支援者本人へフィードバック



避難行動要支援者の登録

避難行動要支援者名簿への登録は、手上げ方式のため全対象者を網羅できていない。

➡ 支え合いマップづくりの場で地域での見守りや避難支援が必要と判断された要配慮者について、名簿への登録を引き続き呼びかける。

実効性のある計画

作成したら終わりではなく、避難訓練等を実施することで新たな課題を可視化し、また共有しつつ計画を改善し、実効性を確保する。

➡ 訓練を実施後、支援者個々の振り返り、そして全体での振り返りを重要な場と位置付け、地域支援者主体の個別避難計画へフィードバックする。

個別避難計画の重要性の理解促進

個別避難計画について、理解を深め、地域ぐるみでの避難支援の更なる促進。

➡ 地域力中心で取り組むことが肝要であり、地域の力を最大限に発揮するために、地域のネットワーク強化と住民一人一人が防災に対して、主体的に取り組むように意識を高める。

避難行動要支援対象者の調査及び登録の案内

- ・ 普段から地域の要配慮者と関わり地域の実情に詳しい民生委員・児童委員に、避難支援を必要とする人の調査を依頼し、避難行動要支援者名簿への登録申請を取りまとめてもらう。

「住民支え合いマップづくり」開催（年一回）

- ・ 地図上で地域住民同士が、避難行動要支援者等の状況、地域課題等について情報を共有
- ・ 地域支援者として、自治会長、民生委員・児童委員、警察、防災ボランティア、消防団員、学校関係者など、地域の実情を把握している方が参加。
- ・ 災害発生時等に駆けつけられる支援者や危険個所などの地域の情報を地図に示し、共通理解を図る。
- ・ 各自治会ごとに要支援者区分シートを基に優先度を4段階（S・A・B・C）に分ける。
- ・ 優先度の高い避難行動要支援者（S・A）について個別避難計画を作成。

専門職との連携及び福祉避難所の振り分け

- ・ 地域支援者主体で作成された個別避難計画について、福祉専門職と連携。要支援者の状況をより詳しく把握する。
- ・ 避難行動要支援者の状態によって村内に3ヶ所ある福祉避難所へ直接避難できるよう、福祉避難所の振り分けとそれぞれの避難経路を作成し、地域支援者及び要支援者本人へ配布

**優先度の高い避難行動要支援者について、個別避難計画を策定
毎年「住民支え合いマップづくり」を開催することで計画を更新及び新規策定**